

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和4年11月25日（月）9時30分から11時15分まで
参加者	委員：9人 事業所：9人 事務局：10人
場所	和合せいれいの里 研修センター
内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 住吉・和合地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3 協議内容</p> <p>住吉・和合、富塚の2グループそれぞれで、前回会議の振り返りとグループワークを行った。</p> <p>【 住吉・和合 】</p> <p>前回（9月26日）、「〇〇とゴミ出し」の個人ワーク、グループワークを行った。それを踏まえて、和合圏域ではどのようにゴミ出しが展開されているのか、和合地域のゴミ出しの現状、生活支援におけるゴミ出し、訪問介護のヘルパーによるゴミ出しについて情報共有した。また、障がい者の作業所と地域の協働についても報告があった。</p> <p>まず、事業所と地域との関係性が見えるケースについて、おもにゴミ出しに的を絞って報告してもらった。</p> <p>▼介護保険事業所の実態、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護の現場では従事者の確保が困難な現状。ゴミ出しのみの訪問はおむつ交換など重度者の介護と組み合わせられれば可能であるが、ゴミ出し支援は同時刻の要望が多く、対応しきれっていない。 ・ゴミ収集車に間に合わないことも少なくない。 ・分別ができない利用者にも対応している。たとえば「洗っていないプラは燃えるゴミ」と何度言っても正しく分別できない人や缶詰めの缶を洗わずに捨てようとする人にはできるまで繰り返し伝えるが、できなければヘルパーが対応している。そのようなケースのゴミ出しは時間がかかるため、朝の時間帯に受けるのは難しい。 ・近所の方と顔見知りになると、そろそろ収集車が来るよ、など役立つ情報を教えてもらえたりして助かることがある。 ・ゴミ出しの必要な人は要支援、要介護で転倒リスクが高い人が多い。歩行に不安があつて杖や歩行器を使用しているのに、さらにゴミを持つ、運ぶという行為はリスクが高い。転倒は、骨折、入院、入所につながるため、高齢者にとって何よりも避けたいことである。

▼地区社協家事支援について

・ゴミ出しニーズがあるのは、単身の高齢者か高齢者世帯で、支援を求める時間帯が集中している。

・兄弟二人暮らしの支援をしているが、ひとりが体格の良い人で介助するのが困難。家事支援でゴミ出しを続けているが、現在2名で対応している状況。今はできているが、これをいつまで続けるのか、続けなきゃいけないのかと考えると煮詰まってくる。

・家事支援のゴミ出しは、分別されたものを持っていくという形。トラブル回避のため、家のなかでの支援はしていないので、分別済みのゴミを玄関先などに出しておく人に限られる。担当するのは、近所の協力員。毎回、ゴミ出しだけのために車で出かけて行くわけにもいかない。

▼自治会について

・自治会としては環境整備がおもな仕事。ゴミ出し困難者が具体的にどのくらいいるのか、把握が難しい。アンケート的なものが必要とも感じる。

・ゴミ収集の時間は現実的には9時ごろでも間に合うこともあるが、地域によって違い、また半年単位で変更される場合がある。

・自治会を退会すると個人でゴミ出しすることになる。ゴミ出しのために自治会に入っているような人もいる。なかなか地域と関わろうとしないも多い。

▼その他

・地区社協：近所の人が誘い合ってきてくれるイベントを実施しているが、今後も続ける必要があると思う。そういった場ではじめて実際の困りごとや相談ごとをしたり、聞いたりできるのではないかな。コミュニケーションが取れる集まりを地域で実施することが大事だと思う。

・困っている人がどこにいるのか、困っている人を発見することが大事。

・くるみ作業所：地域の草刈りや草取りなどの作業を請け負って行っている。

<まとめ>

■介護事業所と地域が連携したゴミ出し支援についての可能性

ヘルパーの支援が困難な理由の一つに同時間にゴミ出しがあること

一方でプライバシー保護の観点から地区社協家事支援は屋内でのゴミの分別は取り組みにくい

可能性：分別はヘルパーが行い 屋外に出してあるゴミを集積所にもっていくのは地域での助け合いという役割分担ができないだろうか

⇒新たな担い手確保が課題になるが 地域の中で工夫することを検討

■障がい施設と家事支援活動の連携の可能性

■同時に担い手を生み出す 地域交流も同時並行で取り組む方が効果的

【 富 塚 】

前回富塚では、〇〇×ゴミ出しの案を出し合い、その中でも意見が多かった「自分のゴミ出しをしながら」「ラジオ体操やウォーキングをしながら」ほかの人のゴミ出し支援をすることについて、期待される効果の意見交換をした。今回は、介護保険事業所と障がい者の作業所も交えてゴミ出し支援の実態について話し合いを行った。

▼介護保険事業所の実態、課題

- ・ゴミ出しただけだと短時間の支援となるため、他のサービスとの組み合わせを考えなければならない。モーニングケア（利用者が起床してから行う一連のケア）といっしよに組み合わせることが多い。
 - ・時間帯が限られてきてしまうため、その時間はケアが混む。
 - ・分別から始めると時間がかかってしまうため、時間を有効に使えるよう前日に分別を行っている。
 - ・ゴミ出しの頻度を減らして支援している。可燃ごみ週 1、プラごみ月 1 など。
 - ・費用としては、単純にゴミ出しただけだと 30 分くらいの利用になり 250 円。しかし、ゴミ出しだけで依頼してくる人はいない。
- ゴミ出し以外の課題を抱えている人が多い。
- ・昔のような近隣の人との助け合いはなかなかない。

▼地区社協家事支援について

- ・富塚の家事支援は平成 12 年から始まっており、支援員は 50 人近くいる。現在ゴミ出しの依頼としては 5、6 件くらい。
- ・ゴミ出しの依頼は増えている。ヘルパーさんから依頼がくることもある。
- ・庭の管理ができていない家が多い印象。
- ・民生委員として、この家が困っているという情報が入ってくることもあるが、なかなか介護保険につながらない。→ヘルパーを利用しておらず、埋もれてしまっている人がいる。
- ・支援員は女性が多い。ゴミ出しは重労働なので男性の手が欲しいのでは。また、支援員からは、自分の家のゴミ出しもあるのに他の家のゴミ出しまで無理との声もある。
- ・利用者は、家でこれからもすごしていきたいという気持ち強い人が多い。

▼〇〇〇×ゴミ出しの課題について

- ・支援をするからには継続の仕方を考えなければならない。
- ・犬の散歩をしながらという案もでていた。介護保険・家事支援ではペットのお世話にかかわることはできないことになっている。ペットの餌を買うというのもできない。
- ・マンションのゴミ出しみたいないつでもゴミ出しをできるような集積所の仕組みが

	<p>あれば良い。</p> <p>▼障がい者作業所より 資源回収・運搬の作業を行っている作業所もある。障がい者就労としてゴミ出し支援ができる可能性はあると思う。</p> <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ヘルパーのゴミ出し支援において、時間帯が限られた支援であること、ニーズもある分特定の時間にケアが混雑するという課題がある。 →地区社協家事支援と役割分担しながら連携していく ■ヘルパーや家事支援を利用しておらず埋もれてしまっている人を介護保険につなげていくことが必要。 →地区社協、民生委員、介護保険事業所が連携し、情報共有を行っていく。 ■障がい者就労としてゴミ出し支援を行う可能性 <p>4. 連絡事項</p> <p>5, 閉会</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>今回会議では、各地区に分かれて介護保険事業所と障がい者の作業所も交えたグループワークを行い、介護保険事業所や地区社協の家事支援の実態について把握し、意見交換を行った。ヘルパーと家事支援がそれぞれ役割分担しながら支援していくような連携についても考えることのできる機会となった。今後は、地域と事業所が協力・連携した支援の仕組みについて検討していきたい。</p>